

第2回施策検討ワーキング・グループにおける議論のポイント

平成22年8月25日

◆ 全体、その他

- イノベーションの対象が、科学・技術駆動型なら、科学・技術・イノベーションは、それぞれ独立ではなくなる。定義し、認識を揃えるべき。（中馬委員、中西委員）
- 「人財」に関して、「財」の意味は「モノ」であり、「材」の意味は「資質」。どちらが良いかの議論をすべき。（松本委員、下村委員）

◆ I 章全体

- 経済成長による歪みに対する警告を発し、その解決策として日本独自のモラル・考え方を活用という表現を含めるべき。（松本委員）
- リスクの担保を含むような国のサポートという表現を含めるべき。（橋本委員）
- 「共生」というニュアンスを加えるべき。（中馬委員）
- 「共生」だけでなく、日本が世界の模範となるという姿勢を入れるべき。（松本委員）

◆ I. 3. (1)

- 問題点を抽出している傾向が強いため、もう少し成果を示すべき。（中西委員）

<研究開発投資と戦略的重点化>

- 政府研究開発投資目標が達成出来ないと記述するだけでなく、目標が絵に描いた餅とならないよう、目標達成のための方策を示すべき。（松本委員）

<科学・技術システム改革>

- 運営費交付金に関して、深刻な状況を記載すべき。（松本委員）
- 連結性、ネットワーク性を高めることが人財においても重要である。（中馬委員）
- 大学や独法のシステム改革を今後も継続する必要がある点を指摘すべき。（本席議員）

<社会・国民に支持される科学・技術>

- 「社会・国民と共に歩む科学・技術政策」として、科学・技術が、コミュニケーションだけではなく、社会的な課題に対して貢献するという表現にすべき。（松本委員）

◆ I. 3. (2)

- 「世界の中で貢献する」という表現にすべき。（中馬委員）
- ②に「安全・安心」というニュアンスを加えるべき。（下村委員）
- 「環境・エネルギー制約」、「少子高齢化」は、世界の課題を先取りし、今後世界に貢献するとして、ポジティブに捉えるべき。（青木議員）

◆ I. 3. (3)

- ③として、「社会と共に作る進める科学・技術政策の実現」を加えるべき。（松本委員）
- Science for Society だけではなく、Science for Policy を含めるべき。（青木議員）

◆ II章全体

- イノベーションの推進には、人文社会科学的な考え方を入れるべき。（松本委員）
- 「出口」が強調されているが、リニア形の発想である。現状は、出口が見えにくく、リニア形ではなく、連鎖形のシステムが必要である。（中馬委員）

◆ II. 1.

- サブWGの検討結果を反映し、課題及びその克服と克服策の世界展開という流れで再度まとめるべき。（相澤議員）

◆ II. 4. (1)

- さまざまな段階の研究者等がネットワークを築くことが重要であり、「国際的なネットワーク」という観点を含めるべき。（青木議員）

① 「イノベーション戦略協議会（仮称）の創設

- 立案・実行する主体を明確に表現すべき。（下村委員）
- 研究開発以降の過程が重要であり、従来との違いを明確に示すべき。（奥村議員）

② 産学官の「知」のネットワーク強化

- 推進方策で主語が明確に示されており、オープン・イノベーションと言いながら、主体に制約がかかっているような印象を受けるため工夫すべき。（橋本委員）
- 特許は、時間がかかるため、長期的な視点を含めるべき。（中西委員）
- アイデアの連鎖の速度が速くなっており、従来の特許制度では対応できなくなりつつある。それら連鎖性、速度と関連付けた表現を加えるべき。（中馬委員）
- 産学官のネットワークに海外大学との連携も加えるべき。（下村委員）

③ 多様な研究開発力を結集する「場」の構築

- 「出口を見据えた戦略的な研究開発」は、危険な発想であり、基礎から応用までの連鎖性を高め、待ち受けの自由度を上げるという発想にすべき。（中馬委員）

◆ II. 4. (2)

① 事業化支援の強化に向けた基盤整備

- S B I Rの一律「〇%」は、良くない。（中西委員、下村委員）
- 府省と研究開発機関の連携システムについて、ニーズとシーズのマッチング強化として踏み込んだ表現にすべき。（中西委員）

② 特区機能を活用した「ナショナルラボ」の創設

- 現状スーパー特区があるが、必ずしも規制解除が出来ておらず、現行の制度の問題点を整理した上で、制度を考えるべき。（橋本委員）
- 規制解除による責任の所在が読み取れるようにすべき。（中西委員）

◆ II. 4. (3)

① 新たな制度・規制による新市場の創出

- スピード感を求める表現を含めるべき。（中西委員）
- 規制は、ポジティブ／ネガティブの区別はなく、慎重に考えるべき。（下村委員）

② 知的財産戦略の推進

- 審査の時間短縮という観点を加えるべき。（今榮議員）